



福島県のGAPチャレンジについて

日時：平成30年9月18日（火）

場所：中央合同庁舎8号館 講堂

福島県

1 認証GAPの取組状況

認証GAPにチャレンジする生産者が大幅増加。

認証数は86件（H28末比8倍）

さらに、今年度
50件以上増

現在

86件
678ha

H28末
10件

（平成30年9月7日現在）

【認証件数】

	認証GAP 計	（ 内 訳 ）			
		GLOBAL G.A.P.	ASIAGAP ※1	JGAP ※2	FGAP
H28	10	3	1	6	—
H29	62	18	3	36	5
現在	86	19	4	51	12

※1 ASIAGAPには、JGAP Advanceを含む。（H29,8月より名称変更のため）

※2 JGAPには、JGAP Basicを含む。（H29,8月より名称変更のため）

様々な認証取得者が！

広大な県土、各地方毎に
様々な主体が認証取得！！

一定ロットのある団体認証
9団体で取得済み！！

農業短期大学校、農業高校
4校で取得済み！！



2 福島県での持続可能性に配慮した取組

福島県では、GAPに取り組む以前から、『食の安全』・『環境保全』に配慮した取組、農業生産を行ってきた。→SDGsの取り組み自体は、昨日今日始めたのでは無い！

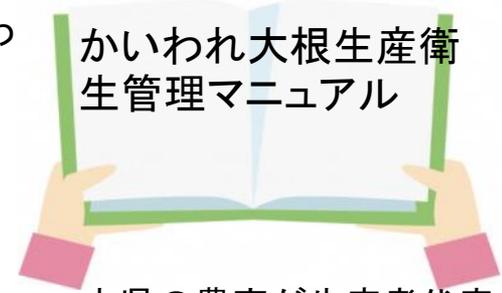


農業生産でのHACCP導入

H8 O157発生、かいわれ大根が疑われる

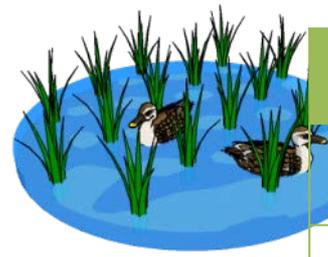


かいわれ大根生産衛生管理マニュアル



本県の農家が生産者代表として参加し、1.5ヶ月でマニュアル作成(初のGAP?)

環境と共生する農業では全国上位



	平成22年度末	全国順位
有機農産物認定事業者数	82名	5位
エコファーマー認定件数	21,889件	1位



○猪苗代湖等の水環境保全のため、肥料成分や有機物をほ場外への流出させない営農を实践

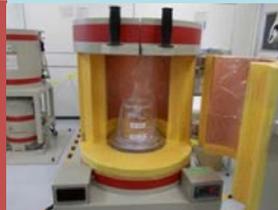
様々な技術対策

- ・ほ場の土の入れ替え
- ・果樹での樹体高圧洗浄
- ・作土の確保
(反転耕や深耕等)
- ・カリウムの施肥
- ・基準値以下の飼料や原木の使用
- ・倒伏等の防止
- ・交差汚染防止



モニタリングと自主検査

モニタリング



平成29年度実績

19,545点

産地での自主検査



全量全袋検(H29)

米9,924,917点

園芸品目(H29)

35,120点

安全確保に向けた取組の結果、栽培管理された農畜産物は超過なし！

しかし、いまだ風評の影響...

安全が伝わらない

◆米の全量全袋検査の結果

【平成29年8月22日～平成30年6月30日】

玄米 【平成29年産】	検査点数	基準値超過数	超過数割合
	約997万点	0点	0.00%

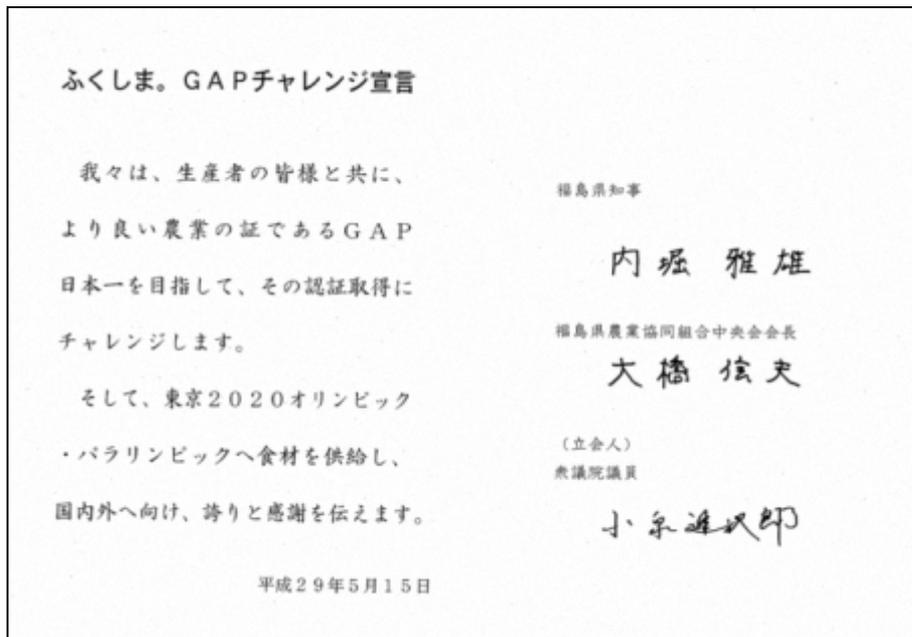
◆野菜・果物、畜産物等の検査結果

(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

種別	検査件数	基準値超過数	超過数割合
野菜・果実	817件	0件	0.00%
畜産物	1,065件	0件	0.00%
栽培山菜・きのこ	244件	0件	0.00%
海産魚介類	1,566件	0件	0.00%
内水面養殖魚	16件	0件	0.00%
野生山菜・きのこ	568件	1件	0.18%
河川・湖沼の魚類	329件	2件	0.61%

3 ふくしま。GAPチャレンジ宣言！

風評払拭に向け、安全・安心な農業生産を行う、より良い農業の証であるGAP日本一を目指すこととし、福島県とJA福島中央会による「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」を行った。



「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」

右より、齋藤農林水産副大臣（当時）、小泉進次郎衆議院議員、内堀知事、大橋JA福島中央会会長、長沢復興副大臣（当時）、

宣言に込めた
思い

震災と原発事故で傷ついた生産者のプライドを、認証取得のプロセスを通して、新しい誇りとして創り上げたい。オリパラ調達基準をクリアして、福島のおいしい食材を食べていただくことにより、震災以降の国内外からの応援に対する感謝の気持ちを伝えたい。

そして、真摯に
農業に向き合う
福島を見て欲しい。

ふくしま。GAPチャレンジ宣言は、県内外に届いた！ 県を挙げてGAPチャレンジ中！！

認証取得者

- GAP宣言に共感
- 先導者として積極的に普及啓発
- 「GAP認証取得して良かった」と発言



県政広報番組の取材

生産者

- GAPを必要な取組と認識
- 研修会には毎回多くの生産者が参加
- 多くの生産者がチャレンジ開始



研修会には数多くの参加者

農業団体等

- 各JAでGAP特別決議、団体認証に着手
- 法人協会等多くの関係組織でもGAP推進
- 小売業者等からもGAP問合せ



団体認証も見据えた研修会

報道機関

新聞等でも連日のようにGAP記事
→生産者、農業団体、さらには消費者の認知度向上

4 GAPチャレンジへの支援

GAPチャレンジ初年度は、生産者の理解促進、負担軽減に取り組んできた。

- 宣言によるメッセージ
- JA、県、農業団体で研修会多数開催
- GAP推進月間・推進大会で広く周知



GAPって何？

負担は？費用もかかるの？

- 団体認証**で負担軽減
- 審査費用等必要な経費への**補助**
- 分かり易い資料で不安と負担低減



- GAP指導員JA577名、県184名育成
- 現地研修、模擬審査
- コンサ、JA、県が連携した個別支援



一人じゃ心配

私の経営にあったGAPって？

- 推進対象者**を明確化
- 各GAP**コンサ**等からきめ細かな支援
- 選択肢を増やすため**FGAP**創設



GAPの認証取得に向けた支援と課題



5 現在、チャレンジ中

団体認証・地域やグループでの認証でロット確保



- 全てのJAで団体認証にチャレンジ中
- 地場産品づくりや担い手育成の視点から、地域やグループでもチャレンジ開始（市町村も積極的）

GAPの見える化

誰からも、どこからでも見えるよう



（FGAP以外の認証GAPも今後見える化予定）

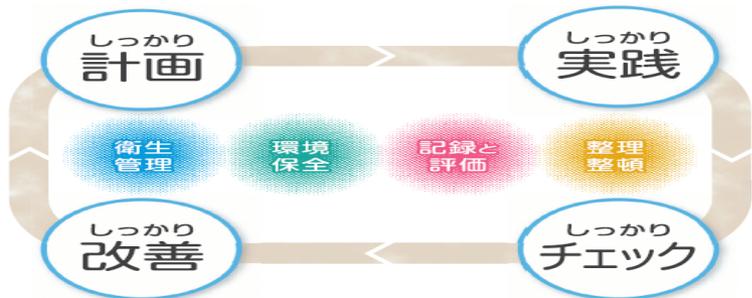


選んでいただけるよう！

消費者・実需者の理解促進

GAPのこと、もっともっと
知っていただきたい

そもそもGAPって何？一言で言うと？



お客様へ、
一言で言う
と？



安全と品質の
太鼓判

持続可能な農業生産

SDGs
(持続可能な
開発目標)

温暖化対策

成長・雇用

循環型社会

ジェンダー平等



SDGsに繋がる

信頼を繋いで競争力強化

信頼のフードチェーン

GAP
(農業生産)

HACCP
(加工・流通)

表示
(小売)

迫るHACCP義務化



信頼のフード
チェーンの源泉
であること

風評を経験しているからわかる
一部の努力では伝わらない!!!

全国での取組が必須



**まだまだ、GAPチャレンジを進めます。
そして、持続可能性に配慮した農業生産を続けます。**

(吾妻山の五色沼、標高1,740m、神秘的に変化するコバルトブルーの色から別名「魔女の瞳」とも。これら美しい県土を大切に・・・。)